

みやぎの

8月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.198 2023.8

紹介内容 (7/1~7/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 石巻農改：上区の農地・農業を守るために ～上区地域農用地利用改善組合設立総会開催～
 - 亘理農改：「第1回いちご新規生産者・後継者向け勉強会」を開催しました
 - 大崎農改：大崎農業士会第1回研修会
 - 大崎農改：第50回加美郡総合畜産共進会が開催されました
 - 登米農改：ピーマンの出荷査定会と現地検討会が開催されました
 - 気仙沼農改：気仙沼地区農業士会の研修会が開催されました
 - 大河原農改：農業簿記勉強会が開催されました
 - 気仙沼農改：南三陸町で地域計画の説明会が開催されました
 - 亘理農改：亘理名取地区農業士会通常総会が開催されました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 石巻農改：先輩から学ぼう！石巻地域4Hクラブ視察研修を開催しました
 - 気仙沼農改：みやぎ農業未来塾（学生コース）を開催しました
 - 仙台農改：宮城県農業士会総会及び宮城県農業士退任・認定式、農業士会研修会並びに仙台農業士会総会が開催されました
 - 大崎農改：みやぎ農業未来塾の視察研修を開催しました
 - 大河原農改：農業講座「花苗寄せ植え体験」を開催しました
 - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました
 - 石巻農改：石巻地域生活研究グループ連絡協議会視察研修を開催しました
 - 登米農改：登米市4Hクラブが販売会を行いました！
 - 美里農改：美里地区生活研究クラブ連絡協議会が野菜栽培技術向上講座を開催しました
 - 栗原農改：令和5年度栗原市農業女性のつどいを開催しました
 - 大河原農改：若手果樹生産者向け研修会の第2回目開催しました！
 - 大河原農改：若手果樹生産者向け研修の第3回目を開催しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 仙台農改：令和5年度第1回JA仙台稲作部会協議会が開催されました
 - 仙台農改：令和5年度第1回たまねぎ部会（品目別団地振興部会）研修会が開催されました
 - 気仙沼農改：令和5年度JA新みやぎ稲作生産者連絡協議会が開催されました
 - 気仙沼農改：農業用ドローンによる作業実演会を開催しました
 - 気仙沼農改：水稲あぜ道相談会で今後の栽培管理を確認しました
 - 仙台農改：第4回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
 - 石巻農改：第2回乾田直播現地検討会が開催されました
 - 仙台農改：令和5年度「だて正夢」「金のいぶき」地域栽培塾を開催しました

④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

- 大河原農改：とうもろこしの栽培講習会を開催しました
- 石巻農改：石巻地域アスパラガス栽培管理勉強会が開催されました
- 仙台農改：加工用ばれいしょの現地検討会が開催されました
- 栗原農改：栗原市果樹連絡協議会主催の果樹栽培資材等研修会を開催しました
- 登米農改：JAみやぎ登米ねぎ部会現地検討会が開催されました
- 登米農改：登米ぼてと組合現地検討会が開催されました
- 大河原農改：柿の栽培講習会が丸森町で開催されました！
- 気仙沼農改：枝もの用クロマツ広域現地検討会が開催されました
- 大崎農改：令和5年度加美郡りんご協議会現地検討会
- 石巻農改：石巻地域園芸特産振興会議を開催しました！
- 栗原農改：令和5年度栗っこズッキーニ抑制栽培講習会が開催されました！
- 登米農改：JAみやぎ登米花卉部会の各専門部で出荷査定会・現地検討会、栽培講習会が開催されました
- 亘理農改：JAみやぎ亘理いちご部会出荷反省会が開催されました
- 栗原農改：JA新みやぎピーマン部会を対象に土壌分析研修会が行われました
- 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会の摘粒講習会が開催されました
- 仙台農改：JA仙台根白石果樹部会のりんご現地検討会が開催されました
- 亘理農改：「なとり・ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が開催されました
- 登米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会の病害虫防除講習会が開催されました
- 石巻農改：オリーブ栽培指導巡回を行いました
- 栗原農改：栗原市果樹連絡協議会主催の相互視察検討会を開催しました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 美里農改：期待の酒造好適米「吟のいろは」の栽培研修会が開催されました
- 大崎農改：清水地区でアンケート調査説明会を開催しました
- 大崎農改：JA古川子実用とうもろこシアワノメイガ防除実演会が開催されました
- 登米農改：暑さの中、水稻の現地検討会を開催
- 登米農改：なかだ転作集団部会の現地検討会が開催されました
- 登米農改：JAみやぎ登米迫稲作経営部会の中間検討会が開催されました
- 石巻農改：(株)宮城リスタ大川で社員を対象とした水稻勉強会を開催しました
- 登米農改：金のいぶき・だて正夢栽培塾が開催されました
- 仙台農改：「おんないん会」の野菜講習会が開催されました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

- 気仙沼農改：「金のいぶき」栽培研修会（第1回）を開催しました
- 美里農改：令和5年度JA新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました
- 大崎農改：水稻採種ほの予備審査を実施しました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- 大崎農改：大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会第42回通常総会が開催されました
- 気仙沼農改：田んぼの生き物観察会が開催されました
- 大崎農改：新商品のパッケージデザインの検討を行いました
- 気仙沼農改：大谷いもの販売が始まりました
- 気仙沼農改：「蔵の華」栽培研修会が開催されました
- 大崎農改：宮城県初！大崎地域わさび栽培現地検討会を開催しました！
- 大崎農改：「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」（商品アピール力向上編）を開催しました

- ② 大規模自然災害等からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 石巻農改：長面地区にてプロジェクト課題の水稻の現地検討会を開催しました

4. その他

- ① 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 大河原農改：令和5年度仙南農業士会総会が開催されました！

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○上区の農地・農業を守るために
～上区地域農用地利用改善組合設立総会開催～
令和5年7月6日
石巻農業改良普及センター



令和5年6月30日にJAいしのみき矢本支店において、上区地域農用地利用改善組合設立総会が開催されました。

本組合は、農業生産構造の改革と地域農業の持続的な発展を目指し行われる農業基盤整備事業に伴い、農地の効率的かつ総合的な利用を図り、生産性の高い農業構造を実現するために設立されたものです。総会は設立趣意書から組合規約、農用地利用規程等すべての議案が承認され、上区地域の農地と地域農業を今後も維持継続していくための検討の場が整いました。

総会終了後は、普及センターより、「上区の農地・農業を守るために」と題し、農地や地域農業を守り、発展させていくためには、地権者と担い手はいつでも相互の関心、理解、協力が不可欠であること、本日設立した農用地利用改善組合がその話し合いの場になることを改めて再確認して欲しいと説明しました。

今回の設立総会を踏まえ、今後も関係機関一体となって、上区地域の農業振興を支援していきます。

○「第1回いちご新規生産者・後継者向け勉強会」を開催しました
令和5年7月12日
巨理農業改良普及センター

巨理山元地域のいちご産地は、震災から12年を経過した現在、生産を再開した生産者の後継者や、県外等からの新規生産者が参入するなど、いちご生産に取り組む若手生産者が少しずつ増加していますが、栽培技術に関する情報交換等の機会が少ない状況となっています。普及センターでは、これからいちご生産を担う新規生産者や後継者同志の繋がりを深めるとともに、栽培技術の向上を目的として、令和5年6月29日、(株)一莓一笑を会場に「第1回いちご新規生産者・後継者向け勉強会」を開催しました。

当日は管内各法人、若手生産者62人が参加しました。勉強会では、「装置のしくみを知ろう」をテーマに日本オペレーター(株)及び(株)ネポンの講師の方からそれぞれ、「定量ポンプ」と「暖房機」のしくみと点検について講義をいただきました。参加者からは「普段何気なく使用している装置のしくみが



よく分かり、メンテナンスに役に立つ」と好評でした。

勉強会の最後には、参加者同士の情報交換の場も設けられ、終了後もしばらくの間、会場となった法人の育苗ハウスなどを見学したり、お互いの栽培状況について情報交換が行われるなど、交流する様子が見られました。

普及センターでは今年度の活動として、今後も新規生産者・後継者向け勉強会を継続的に開催する予定にしており、東北一のいちご産地の更なる発展に向けて支援してまいります。

○大崎農業士会第1回研修会
令和5年7月13日
大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

令和5年7月11日に管内の農業士で組織する大崎農業士会が今年度1回目の研修会を開催しました。今回は集落営農の優良な法人化事例である美里町青生地区の農事組合法人みらいす青生の取り組みについて研修を行いました。

はじめに県農業振興課の中鉢スマート農業コンシェルジュから、宮城県RTKシステム、スマート農業チャレンジ支援事業について御説明をいただき、続

いてみらいす青生の宍戸代表理事組合長から、乾田直播による飼料用米栽培や自動操舵による野菜の栽培管理、地域内労働力の活用などの取り組みなどについて御説明をいただきました。

参加された農業士の方々はそれぞれの集落において指導的な役割を担っており、今後の各地域の農業の発展に向け、大変参考となる研修会となりました。

普及センターでは、今後も農業士活動に対する支援を行っていきます。

○第50回加美郡総合畜産共進会が開催されました 令和5年7月14日 大崎農業改良普及センター



令和5年7月4日（火）、旧大崎西部家畜市場を会場に「第50回加美郡総合畜産共進会」が開催され、加美郡内の畜産農家から、肉用牛雌牛延べ27頭が出品されました。出品牛は月齢や出産の有無等により5つの区に分かれて審査されました。審査の結果、最高位賞には、加美町の千葉康さんが第3区（経産）に出品した「うづき」号が選ばれました。

今後、上位入賞牛は、本年9月に開催される令和5年度宮城県総合畜産共進会への出品を目指します。普及センターでは、関係機関とともに家畜共進会を通じて、家畜の遺伝的改良や飼養管理技術の向上に積極的に取り組む生産者を支援していきます。

○ピーマンの出荷査定会と現地検討会が開催されました 令和5年7月18日 登米農業改良普及センター



令和5年7月7日に、ピーマンの出荷査定会と現地検討会が開かれ、JAみやぎ登米にピーマンを出荷する生産者13人が参加しました。

初めに集出荷場で出荷査定会を行い、全農みやぎの担当者や市場関係者に確認をとりながら、品質や大きさの目合わせを行いました。また、袋づめの実演も行われ、袋詰め出荷を行う生産者から、詰め方や使

用する道具の使い方などについて説明がありました。

その後行われた現地検討会では、普及センターから剪枝の方法や今後注意が必要な病害虫について、実演を交えながら説明を行いました。参加した生産者からは、「管理不足がわかったので、帰ったらさっそくやってみたい。」といった声が聞かれました。

普及センターでは、今後もピーマンの生産性向上と安定生産に向けた支援を行って参ります。

○気仙沼地区農業士会の研修会が開催されました 令和5年7月19日 気仙沼農業改良普及センター

令和5年7月13日、気仙沼市波路上地区において気仙沼地区農業士会の研修会が開催され、農業士6人が参加しました。今回は、管内農業への理解を深めることを目的に、四季成りいちごの栽培に取り組む有限会社水山養殖場を視察するとともに、同法人を対象とした当普及センターのプロジェクト課題について担当普及員が説明を行いました。その後の質疑応答では、販路の確保、販売単価、高温対策、アザミウマ対策などについて活発な意見交換が行われました。

研修後は、お互いの近況報告が行われ、会員同士の交流も再開されたようでした。

普及センターでは、今後も農業士会の活動を支援していきます。

○農業簿記勉強会が開催されました 令和5年7月20日 大河原農業改良普及センター



令和5年6月6日から6月27日までの期間に計4回、角田市農業振興公社及び角田市会議室を会場に、角田市農業青色申告会主催の農業簿記勉強会が開催されました。当普及センター職員を講師とし、受講生10名で行われました。

初めて簿記に取り組む方から長年青色申告をしている方までと受講生は様々ですが、質問も多く大変熱心に取り組んでいました。

受講生からは「農業簿記の仕組みを再確認できた」といった声が聞かれました。

当普及センターでは、今後も先進的経営体の経営安定化及び高度化に向けて支援を続けていきます。

○南三陸町で地域計画の説明会が開催されました
令和5年7月24日
気仙沼農業改良普及センター



南三陸町では、担い手に地域計画への理解を深めてもらうことを目的に、令和5年7月13日、認定農業者、営農組合等を対象に地域計画に係る説明会を開催したところ、農業者20人の出席がありました。

始めに、気仙沼地方振興事務所の農業振興班員から地域計画の概要と地域での話し合いの重要性について説明を行い、続いて町の担当者から地域計画の策定スケジュールについて説明がありました。

質疑応答では、「経営規模が小さくても営農意欲のある農家も農地を手放し、担い手に集積しなければならないのか」や「原野化している農地も担い手が耕作しなければならないのか」など戸惑いや心配の声が聞かれましたが、質問や意見に対して県や町の担当者から丁寧に説明されたことで、理解を深められた様子でした。

今後、町では農業者全戸に営農意向調査を実施し、調査結果を基に各地域で「協議の場」が持たれることになっています。

普及センターでは、地域の話し合いが円滑に行われるよう、町、JAや農地中間管理機構地域コーディネーターと連携して、地域計画の策定を支援していきます。

○亘理名取地区農業士会通常総会が開催されました
令和5年7月31日
亘理農業改良普及センター



令和5年7月6日に岩沼市の「KITCHEN つあいと」で、令和5年度亘理名取地区農業士会通常総会が開催され、当普及センター管内の指導農業士6人、青年農業士5人が出席しました。

令和元年以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により総会は書面決議で実施し、昨年は計画していた移動研修会が開催直前で中止になるなど、様々な影響がありましたが、本年度は4年ぶりの対

面による総会の開催となりました。

浅川淳一会長の挨拶、亘理農業改良普及センター渋谷所長の祝辞の後に行われた議事では、令和4年度事業報告や収支決算、令和5年度事業計画等の上程された議案は全て承認され、新たに選任された佐藤克行会長をはじめ、新役員の下で活動していくこととなりました。

総会終了後には、野菜を中心に地域食材を使った料理に舌鼓を打ちながら、出席者間で情報交換が行われました。

普及センターでは、農業の担い手育成や地域農業の振興を図るため、今後も亘理名取地区農業士会と連携してまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○先輩から学ぼう！石巻地域4Hクラブ視察研修を開催しました
令和5年7月5日
石巻農業改良普及センター



令和5年7月4日に、石巻地域4Hクラブ員を対象に管外への視察研修を行いました。今回は、宮城県指導農業士会長の佐藤さんと、(公社)みやぎ農業振興公社白石牧場を訪問しました。

佐藤さんからは、園芸苗・鉢物生産における個別経営体としての経営のあり方や、顧客を意識したマーケティングの考え方・実践について伝えていただきました。また、白石牧場では、優良子牛生産供給の状況と、令和3年から稼働している新設繁殖牛舎の状況や、畜産担い手育成事業といった担い手の育成について視察をしました。参加した4Hクラブ員は、熱心に聞き入り、自身の経営発展に向けて貴重な知見を得た様子でした。

当普及センターでは、青年農業者の経営発展に向けて、引き続き支援していきます。

○みやぎ農業未来塾(学生コース)を開催しました
令和5年7月5日
気仙沼農業改良普及センター

令和5年6月29日、宮城県本吉響高校2年生の農業専攻7名を対象に、農業への理解・関心を深め、職業選択の一助とすることを目的として、「みやぎ農業未来塾」を開催しました。

今回は、当普及センター管内で生産が拡大しているシャインマスカットに着目し、管内のぶどうの生産状況等を説明した後、果房の摘粒をテーマに講義と実習を行いました。



実習では、生徒にハサミが渡され、各々1房ずつ摘粒作業を実施しました。どの粒を切り落とすか迷う生徒や友達と相談する生徒がいる一方、思い切りよく摘粒して、見守る引率教諭から心配される生徒もいて、楽しい実習となったようです。

普及センターでは、今後も教育機関と連携し、担い手の確保に努めていきます。

○宮城県農業士会総会及び宮城県農業士退任・認定式、農業士会研修会並びに仙台農業士会総会が開催されました
令和5年7月6日
仙台農業改良普及センター



宮城県では、農政推進に対する意見やアドバイスを求めたり、農業の担い手となる若い人材の育成にお力添えをいただくため、県内各地域の優れた農業経営者を知事から農業士として認定させていただいております。

令和5年6月6日（火）午前11時より仙台農業士会の令和5年度総会が開催され、8名の会員が出席しました。総会では令和4年度の活動報告、収支決算報告及び監査報告、続いて令和5年度の活動計画案等が審議され、いずれも原案通り承認されました。また、役員については、会長1名、副会長1名、会計1名、幹事4名、監事2名が改選され、令和6年度までの2年間、仙台農業士会活動が新たな体制で執り行われることになりました。

午後には宮城県農業士会の退任・認定式、研修会、総会が開催され、15名の農業士が退任し、新たに12名が農業士として認定されました。

この総会において仙台農業士会の会長が宮城県農業士会会長に選任され、今後の県農業士会の牽引役として、大役を果たすこととなりました。

○みやぎ農業未来塾の視察研修を開催しました
令和5年7月6日
大崎農業改良普及センター



管内の若手農業者を対象として、農業経営の資質向上と仲間づくりを目的に、令和5年6月28日みやぎ農業未来塾視察研修を開催しました。みやぎ農業未来塾では1～5年目までの新規就農者を対象に専門的な技術・知識の習得や経営能力向上のための講座を開催しています。今回の視察研修には、新規就農者、4Hクラブ員等13人が参加しました。

最初に視察した農事組合法人仙台イーストカンントリーでは、佐々木代表理事から、法人設立より東日本大震災を経た現在までの経過や、地域の農業・農産加工部門に対する思いについてお話をいただき、参加者に向けては、目標をしっかりとって、楽しんで農業に取り組んでほしいとのエールをいただきました。

次に訪問した有限会社大郷グリーンファーマーズでは、西塚代表取締役から、野菜を直接消費者へ販売してきた経験で始まったJAS有機や県認証栽培の取組についてお話いただいたほか、地域内での未利用資源循環の取組等についても学ぶことができました。

それぞれにこだわりのある経営を見て、参加者からは、大規模な経営を見て学ぶことが多かった、米の6次産業化に可能性を感じたなどの感想が聞かれ、有意義な視察研修となったようでした。

○農業講座「花苗寄せ植え体験」を開催しました
令和5年7月10日
大河原農業改良普及センター



6月14日に、柴田町立槻木中学校で花苗の寄せ植え体験を行う農業講座を開催しました。

本講座は、地域の農業者と交流し地域農業の魅力に触れる機会を通して、将来の職業を主体的に選択することができる基盤をつくることや、地域の一員として地域の発展に貢献する人材を育成することを目的に開催しました。

はじめに、県担当者から講座の目的や管内の花き生産について説明した後、川崎町で花壇苗を生産している佐藤重喜氏が、JRC委員会の生徒18名にマリーゴールドやニチニチソウなどの花苗の寄せ植え指導を行いました。

生徒は植え付けの深さや土の量について説明を受けながら、プランターにそれぞれが選んだ苗を植え付け、講師のチェックを受けて完成しました。

最後に佐藤氏から、花を長く咲かせることができるよう、今後の管理の仕方についての説明がありました。プランターは学校の玄関口付近に設置され、初夏から秋まで生徒や来校者の目を楽しませます。

○みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました 令和5年7月11日 亘理農業改良普及センター



令和5年7月6日(木)、亘理農業改良普及センターにおいて、管内で野菜を栽培している新規就農者や若手農業者を対象として、みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催し、9人が参加されました。

本講座では、まず当普及センターから土壌還元消毒について説明後、株式会社渡辺採種場瀬峰研究農場の取締役農場長である早坂良晴氏から秋野菜の栽培ポイントや品種特性について講義していただきました。参加者からは「土壌還元消毒は露地でもできるのか?」「少量多品目に取り組んでいるが、除草のポイントは?」「このような内容の研修会はありがたい。また参加したい。」等、多くの質問や意見が寄せられ、有意義な講座となりました。

普及センターでは、今後も担い手の確保及び育成に務めてまいります。

○石巻地域生活研究グループ連絡協議会視察研修を開催しました 令和5年7月19日 石巻農業改良普及センター

令和5年7月4日に、(有)伊豆沼農産において石巻地域生活研究グループ連絡協議会を対象に、ウインナー作り体験および直売所の視察研修を開催し、12人の会員が参加しました。



伊豆沼農産は、生産(養豚・水稻等)からハムやソーセージ等の加工、直売所・レストランの運営にいたるまで一貫経営にこだわり、ウインナー作り体験のような地域資源を生かした様々な体験プログラムも企画・実践し、地産地消の推進と農業の付加価値化に取り組んでいます。

会員にとっては、これまでコロナ禍もあり、久しぶりの視察研修で、交流を深められたとともに、地域活性化への意欲的な取り組み事例を聞くことで、今後の参考になる良い刺激を得られたようです。

普及センターでは、今後も生活改善研究グループの活動について、継続的に支援を行ってまいります。

○登米市4Hクラブが販売会を行いました! 令和5年7月20日 登米農業改良普及センター



令和5年7月7日に宮城県登米合同庁舎で登米市4Hクラブが、「耕作放棄地プロジェクト」で栽培した新たまねぎとばれいしょの2品目を販売しました。「耕作放棄地プロジェクト」は、登米市4Hクラブの有志5人が集まり、米山町の耕作放棄地約5aを活用し、主に露地野菜を作付けしています。今年、たまねぎ、ばれいしょ、えだまめの3品目を栽培しています。

プロジェクトに参画しているクラブ員5人は施設野菜、花き、畜産、土地利用型などクラブ員自身の営農形態は様々ですが、時間の合間を活用してプロジェクトの作業計画を立てながら、現在はえだまめの収穫に向けて精力的に活動しています。

当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援してまいります。

○美里地区生活研究クラブ連絡協議会が野菜栽培技術向上講座を開催しました 令和5年7月26日 美里農業改良普及センター



美里地区生活研究クラブ連絡協議会（会員 34 人）は、農村の生活と農業生産に関する知識や技術の習得を目的とした研修会を行い、相互に資質向上を図っています。

令和 5 年 7 月 20 日、株式会社渡辺採種場瀬峰研究農場を会場に、農産物直売所等への出荷・販売や農産加工の取り組みに役立てるとともに、家庭における季節の移り変わりに応じたバラエティー豊かな食生活に活用するため、高品質な野菜生産に関する栽培技術と近年開発された新しい野菜品種について学ぶ研修会を開催し、会員 13 人が参加しました。

初めに、秋野菜のは種及び定植時期の目安とその理由などの栽培のポイントや、市場出荷・農産物直売所・自家消費のそれぞれの用途に適する品種等について講義を受けました。

その後、研究ほ場へ移動して、収穫終期の様々な春野菜ほ場と、は種作業が進められている秋野菜の育苗ハウス等の見学を行いました。会員からは、育苗時に使用する被覆資材の使用期間やかん水のタイミング、病虫害防除のポイントなどの様々な質問が出されました。

普及センターでは、引き続き農山漁村のより良い生活や地域の活性化に向けた、女性農業者の活動支援を行っていきます。

○令和5年度栗原市農業女性のつどいを開催しました

令和5年7月28日

栗原農業改良普及センター

令和 5 年 7 月 25 日（火）に、県栗原合同庁舎会議室で、令和 5 年度くりはら女性農業者キャリアアップ講座「栗原市農業女性のつどい」が開催され、35 人が参加しました。

本講座は、農業でイチゴを作りながらマジシャンとして活躍し、その活動をイチゴの販売にもつなげている渡邊一弘氏を講師に招き、御講演をいただきました。講演では、「イチゴ農家もう一つの顔」と題して、農業とマジシャンを両立する方法や、マジシャンになったきっかけ等をお話していただきました。その後、マジックも披露いただき、参加者からは歓声が上がっていました。



参加者からは、「農家とマジックの両立で人生を楽しんでいる姿に感動した。」「もう一つの顔もなりわいにしていく事に今の生き方なのかなと感じた。」等の声が聞かれました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じ、女性農業者の資質向上やネットワークの形成を支援していきます。

○若手果樹生産者向け研修会の第2回目開催しました！

令和5年7月28日

大河原農業改良普及センター



今年度、大河原農業改良普及センターでは、若手の果樹生産者や果樹での新規就農希望者を対象に年 5 回程度研修会を企画しています。目的は、基礎的な栽培技術や知識の向上を図ることですが、同時に互いに交流する場を設ける事で点在している対象者をつなぎ、県内でも有数の果樹産地の活性化につなげる事を期待しています。

第2回目は6月30日に、「農薬の使い方」をテーマに研修会を開催し、9名の参加がありました。(公社)緑の安全推進協会より講師を招き、農薬の種類や薬剤抵抗性などの基礎的な事柄について学びました。また、普及センター職員から「果樹病虫害防除暦の読み方」の講義も行いました。参加者からは農薬の基本について改めて専門家から教わり、良い機会になったとの感想が聞かれました。今回の研修会後半では、参加者の交流が盛んになり、今後の展開が期待されます。

今後にも有意義な内容の研修会を企画し、若手果樹生産者等には継続的な参加を呼びかけていきます。

○若手果樹生産者向け研修の第3回目を開催しました

令和5年7月28日

大河原農業改良普及センター



今年度、大河原農業改良普及センターでは、若手の果樹生産者や果樹での新規就農希望者を対象に、栽培技術向上と交流を目的に年5回程度の研修会を企画しています。

今回、第3回目として7月25日に「下草管理に関する研修会」をテーマに蔵王町で開催しました。宮城県農業・園芸総合研究所の駒形氏からは「下草の高刈り管理による天敵温存」について講演を、和同産業株式会社の高橋氏からは「ロボット草刈機」の実演をしていただき、害虫防除や草刈りの省力化について学びました。参加した6名の中には実際に害虫防除で苦労している方もおり様々な質問がなされ、実演ではロボットの除草をとっても興味深く見ながら、活用方法や性能などを確認していました。

今後にも有意義な内容の研修会を企画し、若手果樹生産者等には継続的な参加を呼びかけ、地域の技術栽培向上や交流を図り、仙南の果樹を盛り上げていきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○令和5年度第1回 JA 仙台稲作部会協議会が開催されました

令和5年7月6日

仙台農業改良普及センター

令和5年6月29日、JA仙台本店で「令和5年度第1回 JA 仙台稲作部会協議会」が開催され、各地区の稲作部会委員や JA 仙台、全農、普及センターの職員が参加し、今年度の稲作への取組み方針や環境保全米への取組みについて意見が交わされました。

普及センターからは、6月22日に発行した仙台稲作情報をもとに生育調査ほの現況や今後の栽培管理について説明しました。また、7月12日に仙台農業改良普及センター主催で開催する「だて正夢・金のいぶき地域栽培塾」、及び6月から実施している農薬危害防止運動について情報提供をしました。

JA 仙台では、環境保全米への取組みを一層推進していく方針で、参加者からは環境保全米の条件や栽培管理などについて活発な議論が行われました。

普及センターでも「安全安心な農畜産物の供給支援」を行っており、環境にやさしい米づくりについて、JAと連携して支援していきます。

○令和5年度第1回たまねぎ部会(品目別団地振興部会)研修会が開催されました

令和5年7月10日

仙台農業改良普及センター



令和5年6月20日、山元町の株式会社やまもとファームみらい野を会場として、第1回たまねぎ部会の研修会が開催されました。当法人では令和5年産の作付け面積が26ha(直播6ha)で、需要側からの要望も高いとの事です。

圃場見学では、たまねぎ収穫に係る根切、ほ場乾燥など一連の作業状況の説明や拾い上以降の乾燥作業の方法等の説明がありました。

室内での座学では、宮城県における直播栽培のポイントや今後、県内各産地のたまねぎ乾燥を受け入れる施設の内容についての説明などがありました。

これまで、仙台普及センター管内でもたまねぎ栽培は、仙台東部の土地利用型法人による機械化体系の取組や中山間地域の高収益作物として試験的に導入した経緯がありますが、乾腐病の発生や排水対策、雑草等の問題などで定着が難しい状況となっています。仙台普及センター管内で定着しなかった原因と対策などを再確認しながら、定着が図れるのか検討してまいります。

○令和5年度 JA 新みやぎ稲作生産者連絡協議会
が開催されました
令和5年7月10日
気仙沼農業改良普及センター



6月19日、気仙沼市の水田を会場に、令和5年度JA新みやぎ稲作生産者連絡協議会が開催され、生産者や関係機関から計31名が参加しました。

2生産者の展示ほ場で、新規資材を用いた栽培状況を対照ほ場と並べて視察するとともに、各資材メーカーから特徴の説明を受けました。

除草剤では、塊茎を形成する雑草に卓効を示す剤や薬効を確保しつつ低コスト化を実現した剤、殺菌殺虫剤では、病害虫を幅広く防除可能な育苗箱施用剤、管内で散見される秋落ち対策に有効な土壌改良材や近年問題となるプラスチックの海洋流出対策として被覆プラスチックの削減・不使用肥料など、様々な資材が供試され、参加者は興味深くほ場を見比べるとともに、資材について担当者や参加者同士で意見交換しました。

普及センターからは、管内の水稲生育状況や各資材の効果が十分発揮できるよう、ほ場の養分や発生雑草等に応じた資材の選択、水管理等を行うよう説明しました。

自分のほ場に適した資材選択に迷われた場合は、お気軽にお近くの普及センター等にお尋ねください。

○農業用ドローンによる作業実演会を開催しました
令和5年7月14日
気仙沼農業改良普及センター



農業を効率化するスマート農業の普及に向け、7月5日に、気仙沼市本吉町の株式会社小峯興業のほ場を会場に、農業用ドローンの作業実演会を開催し、生産者や関係機関23名が参加しました。

宮城県の「アグリテックアドバイザー派遣事業」を活用し、株式会社ケーエス、スカイ営業部の菅原課長をアドバイザーとして招き、令和5年4月に運用が開始されたRTK-GNSS基地局を活用したドローンの自動飛行について説明を受けるとともに、肥料といもち病対象の水田施用剤の散布作業を行いました。

RTK-GNSSは従来のGNSSより高精度で、数cm程度の誤差で高精度な作業が可能です。散布実演が行われると、参加者からは、驚きの声が上がるとともに、熱心に作業を見学されていました。

自動飛行の場合も、安全確認のためのナビゲーターが必要なこと、散布する資材に応じ、機械の事前設定が必要なことなど、注意点はありますが、高精度な作業や効率化に向けて有効な技術です。

RTK-GNSS基地局の利用は始まったばかりですが、スマート農業の普及に向け、今後も随時研修会、実演会を開催してまいりますので、御興味のある方はぜひ御参加ください。

○水稲あぜ道相談会で今後の栽培管理を確認
しました
令和5年7月19日
気仙沼農業改良普及センター



令和5年7月7、10、12日の3日間、気仙沼市、南三陸町の各営農センター管内で、JA新みやぎ主催の水稲あぜ道相談会が開催されました。

気仙沼3か所、志津川1か所の計4か所の水田を会場に、合計27名の農家が参加しました。

相談会では、気仙沼農業改良普及センター担当者から現在の生育と追肥・防除等の今後の注意点について説明後、農薬販売店・メーカーから自社商品の紹介を受け、ほ場を見ながら管理の要点を確認しました。

今年は5月の移植以降、高温で推移しているため、水稲の生育も早まっています。

そのような中、いずれのほ場も生育は良好で、雑草・病害虫の発生も確認されず、畦畔の草刈り等もされ、適切に管理されていました。

参加した農家からは、幼穂形成期の追肥の判断や施用量、今後予定されるいもち病や斑点米カメムシ類の防除、後発雑草等の対策や高温下での水管理等について、熱心に質問があがり、盛んに情報交換が行われました。

普及センターでは、HP等で随時稲作情報を発行するとともに、現場の相談にも対応していますので、お気軽にお問合せください。

○第4回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
令和5年7月24日
仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターでは、今年度も乾田直播栽培技術を導入し水稲の収量向上を目指す生産者を重点的に支援しています。7月5日に仙台市若林区において、「追肥」をテーマに今年度4回目の勉強会を開催しました。今回は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター（以下「東北農研センター」）の方を講師として招き、地元農業者や農協職員など12名が参加しました。

普及センターから今年の生育状況について説明をした後、東北農研センターから追肥の時期や中干しの必要の有無等について説明していただきました。その後、ほ場3か所をまわり、これまでの生育状況や、今後の栽培管理等について現地検討を行いました。

現地検討の中では、農業者同士で意見交換を行ったほか、講師に対して今後の栽培管理や他地域での栽培事例等について多くの質問がありました。乾田直播栽培技術の開発元である東北農研センターに直接アドバイスをいただいたことで、今作や次期作の栽培管理の参考となったようでした。

普及センターでは、今後も水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

○第2回乾田直播現地検討会が開催されました
令和5年7月24日
石巻農業改良普及センター



令和5年7月14日にJAいしのまき主催で水稲の乾田直播栽培の現地検討会が行われました。検討会には石巻市と東松島市の農業生産者及び関係者49人が参加し、5月の第1回現地検討会に引き続き、東北農業研究センターから講師を招き、4つのほ場を巡回しました。各ほ場で草丈や茎数、幼穂長などを確認し、今後の追肥時期や量、水管理などについて検討しました。

すべてのほ場で草丈が60～70cm、茎数は約400～690本/m²、幼穂長は3～5mmと順調な生育が確認でき、幼穂形成期をすでに迎えており、出穂は8月上旬

と予測されました。

令和5年の石巻管内における乾田直播による作付面積は約900haです。今年も所得向上に向けた省力・低コストの稲作を推進するために地域一丸となって取り組んでいきます。

○令和5年度「だて正夢」「金のいぶき」地域栽培塾を開催しました
令和5年7月26日
仙台農業改良普及センター



令和5年7月12日（仙台会場）及び14日（黒川会場）に「だて正夢」「金のいぶき」地域栽培塾を開催しました。

水稲品種「だて正夢」及び「金のいぶき」は、栽培マニュアルに基づく栽培管理の実践を徹底するため、生産者を登録制として高品質・良食味米生産に取り組んでいます。このため、仙台地方米づくり推進本部では令和元年から地域栽培塾を開催し、登録生産者の栽培技術の向上を支援しています。

仙台会場では「だて正夢」及び「金のいぶき」、黒川会場では「だて正夢」を対象に、普及センターから生育調査に基づく現在の生育状況及び品質基準達成に向けた追肥や高品質米生産に向けた病虫害防除等今後の栽培管理について説明しました。

現地の普及展示ほ場では、耕種概要や現在の幼穂長、葉色等を確認しました。参加者は、自分の栽培ほ場との茎数、葉色の違いを比較しながら、今後の追肥時期、量について確認し、生産者同士の意見交換も活発に行われました。

今後とも普及センターでは「だて正夢」「金のいぶき」の品質向上、安定的な生産に向けて継続的に支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○とうもろこしの栽培講習会を開催しました 令和5年7月2日 大河原農業改良普及センター



令和5年6月15日木曜日、当普及センターでは道の駅「村田」で地域特産のとうもろこし「味来(みらい)」等の栽培講習会を開催し、生産者団体「村田ファーマーズ」の会員及び関係者合わせて25名が出席しました。

講習会では、とうもろこしの今後の栽培管理方法、生育適期の追肥及び倒伏防止のための土寄せ、主要病害虫と農薬使用時の注意点といった基本的な技術や、ハウスを使用することで秋まで収穫できる抑制栽培について説明を行いました。

講習会終了後は、村田町内のとうもろこしほ場へ移動し、施肥・農薬散布・収穫等の適期等をテーマとした現地検討会を開催しました。質疑応答では、品種特性や農薬の散布時期等について質問があり、生産者の方々の関心の高さが伺えました。生産者の方から「今回の講習会では、とうもろこし圃場も見学でき、防除の時期・肥料の使い方なども詳しく説明があり、とうもろこしの生産について基本の部分から勉強できて良かった。」との声も頂きました。

村田町の特産品であるとうもろこしの「味来(みらい)」は直売所で早い時間に売り切れてしまうほどの人気商品であり、生産の拡大が求められています。普及センターでは、今後も良質なとうもろこしの生産向上に向け、支援を行っていきます。

○石巻地域アスパラガス栽培管理勉強会が開催されました 令和5年7月3日 石巻農業改良普及センター



令和5年6月23日、JAいしのまき主催で東松島市の株式会社絆粋ファーマーズほ場を会場に生産者6人が参加し、アスパラガス栽培管理勉強会が開催されました。

会場のアスパラガスは、本年定植のハウス立茎栽培で、1m以上に生長しており、病害虫の発生もなく、株養成は順調で、翌春には収穫できる見込みです。

普及センターから、病害虫防除、下枝の整理、細い茎の間引き、かん水や追肥等について説明を行いました。また、年度処理として、黄変した茎葉は地際から刈り取り、残さはほ場外に持ち出し処分することを呼びかけました。農薬散布、切り戻しの高さ、ネットの設置、かん水や追肥などについて参加者同士で情報交換を行うなど、今後の栽培管理の参考となっていました。

石巻管内は、1年で株養成して翌年に全収穫する「採りつきり栽培」と春芽収穫後に立茎して夏芽や翌年以降も収穫する「ハウス立茎栽培」が導入され、令和4年度の全農みやぎ青果販売実績では県内一のアスパラガスの産地となっており、今後も生産の拡大が期待されます。

普及センターではJAいしのまきと連携して、今後とも栽培技術の支援を行っていきます。

○加工用ばれいしょの現地検討会が開催されました 令和5年7月3日 仙台農業改良普及センター



令和5年6月26日、宮城県ぼと生産者協議会の加工用ばれいしょ現地検討会が開催され、仙台市及び岩沼市内のばれいしょ生産ほ場にて、生産状況の確認や今後の管理等についての検討を行いました。仙台市のほ場は、農事組合法人福鶴ファームがカルビーポテト(株)との契約栽培により、令和4年から栽培を開始し、今年は2.6ha(前年1ha)の面積に拡大して生産を行っています。普及センターでは生育調査ほを設置するなどして、生育状況を観察しながら、栽培技術支援を行っています。

当日は、県内の加工用ばれいしょ生産者、カルビーポテト(株)や関係機関など約40名の参加があり、カルビーポテト(株)栽培支援担当者から情報提供があった今後の肥培管理等の話に耳を傾けていました。昨年は7月の大雨により、芋が腐敗するなどして収量が

低下してしまいましたが、福鶴ファームでは今作の対応として排水対策を実施するなどして、概ね順調な生育となっており、収穫は7月中旬頃を予定しています。

○栗原市果樹連絡協議会主催の果樹栽培資材等研修会を開催しました

令和5年7月11日

栗原農業改良普及センター



令和5年7月4日（火）、宮城県栗原合同庁舎の会議室を会場に栗原市果樹連絡協議会果樹栽培資材等研修会を開催し、会員及び関係機関から14名の参加がありました。

当日は、晃栄化学工業株式会社弘前営業所の三上顧問を講師として、果樹栽培における葉面散布剤の効果的な使用方法等について研修を実施しました。出席者からは、様々な質問や意見などが出て、活発な研修会となりました。

栗原市管内では、ここ数年降霜等による被害が続いていることから、物理的な対策だけではなく、取り組みやすい対策などについても情報収集する必要があるのではないかとの声から企画したものです。

普及センターでは、今後もタイムリーな研修会や情報提供等を通じて、りんご産地の強化を支援していきます。

○JA みやぎ登米ねぎ部会現地検討会が開催されました

令和5年7月11日

登米農業改良普及センター



令和5年6月27日に、登米市中田町でJAみやぎ登米ねぎ部会現地検討会が開催され、部会員20名が参加しました。

現地検討では部会員のほ場2か所を巡回し、今年の生育経過や新たに栽培されている品種などについて盛んに意見交換が行われました。普及センターからは、排水機場施設の能力を上回る昨今の大雨の増加を踏まえて、取り組みやすく効果的な排水対策に

ついて説明を行いました。また、近年は年ごとに増加する害虫の種類が異なることから、定期的にはほ場を見回り、発生状況に合わせた防除を行うことを部会内で確認しました。

普及センターでは、今後もねぎの栽培技術向上と安定生産に向け、支援を行って参ります。

○登米ぼてと組合現地検討会が開催されました

令和5年7月11日

登米農業改良普及センター



令和5年6月29日、JAみやぎ登米 登米ぼてと組合の現地検討会が開催され、組合員9名が参加しました。

現地検討では、カルビーポテト株式会社の宮城駐在員とともに登米市迫町、中田町、豊里町のほ場13か所を巡回し、生育調査及び掘り取り調査を行いました。掘り取り調査では、4月初めの植え付けから数回の大雨に見舞われながらも、例年並みの芋数が確保できていることが確認されました。参加した生産者は、今作の肥培管理を振り返り、茎葉や掘り取った芋と照らし合わせながら、盛んに意見交換を行っていました。

加工用ばれいしょは7月下旬から8月中旬にかけて収穫が行われます。普及センターでは今後も加工用ばれいしょの栽培技術向上と安定生産に向け、支援を行ってまいります。

○柿の栽培講習会が丸森町で開催されました！

令和5年7月13日

大河原農業改良普及センター



令和5年6月27日に丸森町で宮城県ころ柿出荷協同組合主催の柿栽培講習会が開催され、柿生産者8名が参加しました。

最初に普及センターから、摘果作業や炭そ病等の主な病害虫防除を含めた7月の栽培管理について説明しました。その後、生産者のほ場を巡回しながら、生育状況や防除について情報交換を行いました。令和3年、令和4年と不作の年が続いた柿ですが、今年度は、凍霜害や奇形果もほとんどなく順調に生育しており、今後の管理について活発な意見交換が行われました。

生産者の中には、2年ぶりに摘果が必要なほど着果している状況を確認し、笑みを浮かべる方もいらっしゃいました。

普及センターでは、今後も柿栽培への技術支援を行っていきます。

○枝もの用クロマツ広域現地検討会が開催されました

令和5年7月19日

気仙沼農業改良普及センター



令和5年7月6日、県内で枝もの用クロマツの栽培に取り組んでいる各生産者のほ場を会場にして、広域現地検討会が開催されました。

当日は、生産者15名、関係者15名の合計30名が参加しました。

現地検討会は、県園芸推進課とクロマツの生産者で組織しているクロマツ研究会の共催で開催され、南三陸町で平成30年から栽培に取り組んでいる株式会社南三陸 Pine Proの後藤代表と気仙沼農業改良普及センターの担当者が、アドバイザーとして参加しました。

令和5年度にクロマツをは種したのは、柴田町、大和町、東松島市、石巻市、登米市、南三陸町、栗原市の4市3町12名で、今回の検討会では、大和町、東松島市、石巻市、登米市、栗原市の4市1町6名のほ場を巡回し、現地検討と情報交換が行われました。

クロマツは、は種後の雑草管理が重要ですが、ほ場によって雑草の発生が異なり、きれいに管理されているほ場があれば、雑草が多発しているほ場もあり、今後の管理について検討されました。

作付けが初めてで、各ほ場のクロマツ発芽率は50%から90%と差はありますが、順調な発芽・初期生育となっており、今後の生育が期待されています。

今後は、今年収穫される南三陸町のクロマツほ場を会場にして、収穫・出荷調製の研修会が開催される予定です。

普及センターとしては、これからも気仙沼管内のクロマツ生産拡大と県内の仲間づくりに向け支援を行っていきます。

○令和5年度加美郡りんご協議会現地検討会

令和5年7月19日

大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者14名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。令和5年7月13日には、これら活動の一環として、参加者の園地を巡回し、着果状況や病害虫発生状況などの確認を行う現地検討会を開催しました。

今年は3月の高温により、りんごの初期生育が平年よりも10日ほど早くなり、それに伴い果実の肥大も7月10日時点で対平年比118%となっています。その後も高温が続いたことから病害虫の発生が心配されましたが、これまでのところ目立った発生もなく順調な生育となっています。

普及センターからは調査ほのデータによる生育状況や今後発生が予想される病害虫防除等についての情報提供を行ったほか、宮城県農薬危害防止運動期間（6月1日から8月31日まで）であるため、農薬の安全使用についての確認を行いました。

当センターでは、今後も会員の技術向上のため、協議会活動の支援を行っていきます。

○石巻地域園芸特産振興会議を開催しました！

令和5年7月19日

石巻農業改良普及センター



令和5年6月28日に令和5年度第1回石巻地域園芸特産振興会議を開催しました。この会議は当普及センターと石巻、東松島の両市及びJ A いしのまき等関係機関の担当者が出席し、石巻地域の園芸振興策等を協議する場です。

会議では、令和4年度の園芸振興における実績と令和5年度の取り組みについて協議しました。

令和4年度は普及センターのプロジェクト課題にて「イチゴの産出額向上」、「園芸法人の強化」に取り組み、補助事業により「いちご栽培設備の導入の支援」や「燃料価格高騰に対する支援」など園芸振興に向けた活動を行いました。

令和5年度は、プロジェクト課題や石巻地域推進計画のもと、重点品目であるいちごやトマト等の施設野菜の単収向上に向けた支援や、ばれいしょ・さつまいも等露地園芸品目の導入推進、新規就農者の確保・育成に取り組むことを確認しました。

今後も関係機関と緊密に情報共有を図りながら、石巻地域の園芸特産振興を進めていきます。

○令和5年度栗っこズッキーニ抑制栽培講習会が開催されました！
令和5年7月20日
栗原農業改良普及センター



令和5年7月7日、栗原市志波姫において JA 新みやぎ栗っこズッキーニ部会の抑制栽培講習会が開催され、生産者18名が参加しました。

はじめに、栗っこズッキーニの主力品種を提供する株式会社神田育種農場の小田課長から、抑制作型における栽培管理について解説いただきました。特に、抑制作型は徒長しやすいため、灌水量や温度管理を徹底するよう呼びかけがありました。

普及センターからは病害虫防除について説明しました。抑制作型において特に問題となるアブラムシ類や軟腐細菌病について、原因と対策を具体的に挙げて説明しました。

加えて、有限会社兵藤種苗商事より、適正な灌水量について植物体の実際の様子を例に出しながら説明いただきました。

講演後の意見交換では、前作の課題について生産者が活発に発言する様子が見られました。普及センターでは、栗っこズッキーニの生産拡大に向けて、引き続き支援していきます。

○JA みやぎ登米花卉部会の各専門部会で出荷査定会・現地検討会、栽培講習会が開催されました
令和5年7月24日
登米農業改良普及センター

令和5年6月に、これからの出荷最盛期や栽培開始に向けて、JA みやぎ登米花卉部会のスターチス、菊、ストックの各専門部会において出荷査定会・現地検討会や栽培講習会が開かれました。

スターチスの出荷査定会・現地検討会は6月1日に、スプレーぎくの出荷査定会・現地検討会は6月15日に開催され、それぞれ生産者7人、5人が参加しました。

いずれも、始めに集出荷場で出荷査定会を行い、市場関係者から助言を受けながら規格・品質の目合わせを行いました。

また、現地検討会では、今後収穫を迎えるハウスを



巡回し、病害虫の発生が少なく生育・品質とも良好であることを確認しました。さらに、普及センターから今後の病害虫防除等の栽培管理や農薬の適正使用、農作業安全について情報提供を行いました。

これから栽培が始まるストックでは栽培講習会が6月16日に開催され、生産者11人が参加しました。種苗会社の担当者から基本的な栽培管理や八重鑑別の方法などについて説明があり、普及センターから虫害防除等について情報提供しました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○JA みやぎ亘理いちご部会出荷反省会が開催されました
令和5年7月24日
亘理農業改良普及センター

JA みやぎ亘理いちご部会の令和5年産出荷が6月20日に終了したことから、7月10日に仙台市秋保において、JA みやぎ亘理いちご部会生産者と出荷先の9市場等の関係者が一堂に会した出荷反省会が開催されました。出荷反省会を生産者も参集して開催するのは4年ぶりとなり、全体で80人を超える参加となりました。

令和5年産は、令和4年7月上旬まで高温が続き、苗の生育は順調でした。また、中旬から天候は一転して8月にかけて曇雨天が続いたことから、いずれの品種も花芽分化は平年並みからやや早くなりました。出荷は例年通りに始まりましたが、曇天と寒波で生育が抑えられ、1月は低調な出荷量となりました。3月に入ると気温が高く推移した影響で、1日の最高出荷量4,500梱包を超える日がありました。今年産

から出荷規格を1パック250gとしたことや、各市場の販売協力等により、最終の出荷量は2,267t、震災後初めて32.0億円を越す販売金額となりました。

令和5年産の反省点を踏まえ、令和6年産に向け、JA、普及センターから、気候の変化に合わせた育苗管理や新たな取組を提案し、「とちおとめ」、「にこにこベリー」、「もういっこ」の更なる安定生産に向け決意を新たにしました。

普及センターは今後も生産に向けて支援をしていきます。

○JA 新みやぎピーマン部会を対象に土壌分析研修会が行われました

令和5年7月24日

栗原農業改良普及センター



令和5年7月18日、JA新みやぎ築館本店において、JA新みやぎピーマン部会の総会が行われました。総会の閉会后、生産技術向上を目的に土壌分析研修会が行われ、普及センターが講師としてプレゼンを行いました。

はじめに、野菜づくりにおける土づくりの基本や肥料価格高騰対策を踏まえた土づくりのポイントについて解説しました。特に、ピーマンでみられる「尻腐れ果」の発生要因と、肥培管理による対策について重点的に説明しました。また、土壌分析結果に基づく適正な施肥及び堆肥の活用によって、施肥コストを削減できる可能性があることを説明しました。

最後に、土壌サンプルを持ち込むまでの土の採取方法や注意点などを説明し、県内各普及センターでは、施肥設計のための土壌分析を受け付けていることを周知しました。

出席いただいた生産者からは、土壌pHの矯正方法や堆肥の投入目安など具体的な質問をいただき、栽培状況を聞き取りながら回答しました。各地区の生産者ごとに様々な課題を持っており、今後の生産拡大に向けて情報共有する有意義な研修会となりました。

○JA 新みやぎあさひなぶどう部会の摘粒講習会が開催されました

令和5年7月25日

仙台農業改良普及センター

7月14日、JA新みやぎあさひなぶどう部会の部会員を対象に、ぶどうの摘粒講習会が開催され、18名の生産者が参加しました。

講習会では、粒が大きく形の良いぶどうの房づくりのため、ぶどうの粒の抜き方を中心に説明し、実際に摘粒を行うデモンストレーションも行いました。生産者の関心が高い作業なので、質疑応答も活発に交わされました。また、生産者同士で教えあう場面も多くみられ、切磋琢磨している様子でした。



6月から8月末にかけて、農薬を使う機会が多いため、農薬危害防止についても指導をしました。普及センターでは、今後も引き続き防除や栽培管理指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

○JA 仙台根白石果樹部会のりんご現地検討会が開催されました

令和5年7月25日

仙台農業改良普及センター



7月19日、JA仙台根白石果樹生産組合でりんごの現地検討会が開催され、6名の部会員が全員参加しました。

当日はそれぞれの園地を巡回しながら、今年の春先の低温による影響や病害虫の発生状況等の確認を行いました。4月の低温の影響か、着果量が少ない品種や樹がありましたが、全体的にはおおむね平年並みの着果量でした。病害虫の発生は、斑点落葉病や褐斑病が見られたほか、一部園地で、ダニ類の発生が確認されたことから、薬剤散布を指導しました。また、普及センターでは、新梢管理に関する技術指導を行いました。

今後も引き続き防除や栽培管理指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

○「なとり・ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が開催されました

令和5年7月26日

亘理農業改良普及センター

名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座夏野菜もぎとり体験」が令和5年7月22日に開催され、普及センターが運営支援を行いました。

参加した16家族36人の親子は、名取市内のは場で旬を迎えた「とうもろこし」、「オクラ」、「トマト」の夏野菜収穫を楽しみ、講師を務めた生産者から栽培の苦労や野菜の美味しい食べ方などを学びました。



トマト収穫では、その場で中玉トマトを食べることができ、「普段はトマトが苦手だけど、このトマトは甘くて、とってもジューシー。美味しくて何個でも食べられる」と子供達は口いっぱい頬張りながら、旬の味を満喫していました。

移動のバスの中では、事務局から出題された野菜クイズに子供達が元気に回答しており、楽しみながら野菜の勉強ができたようでした。また、事務局から毎月第3水曜日に市役所ロビーで開催される「産直ネットワークなとり」の紹介があり、地元の野菜について理解を深めた様子でした。

普及センターでは、引き続き、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動と管内農産物の魅力発信を支援してまいります。

○JA みやぎ登米りんご生産部会の病害虫防除講習会が開催されました

令和5年7月27日

登米農業改良普及センター



令和5年7月21日にJAみやぎ登米りんご生産部会の病害虫防除講習会が開催されました。

今年は「管内で発生がみられる病害虫及びその防除方法について」をテーマに、普及センター職員が基本的な病害虫の発生生態、防除時期や薬剤について講義しました。また、作況調査結果を基に管内の7月までの生育状況について説明し、昨年度に普及員が調査研究で実施したりんごV字ジョイント栽培の調査結果について情報提供しました。

当普及センターでは安定したりんご生産ができるよう引き続き支援してまいります。

○オリーブ栽培指導巡回を行いました

令和5年7月27日

石巻農業改良普及センター



令和5年7月21日（金）に、石巻市産業部農林課と普及センター職員で、雄勝、大川、北上地区のオリーブほ場を巡回して、生育、着果、病害虫の発生状況等の確認を行いました。

生育は前年より進んでおり、着果量は各ほ場とも前年より多く、収量も前年より多くなることが見込まれました。

一部でハマキムシ類や炭そ病の被害果が見られるものの病害虫の発生は全体的に少ない状況でした。

このまま順調に生育すれば10月中旬にはオリーブ果実が収穫され、前年より多い搾油量が期待されます。

普及センターでは、病害虫防除や施肥管理等の栽培技術について今後も支援を行ってまいります。

○栗原市果樹連絡協議会主催の相互視察検討会を開催しました

令和5年7月27日

栗原農業改良普及センター

令和5年7月25日（火）、栗原市高清水福塚において、栗原市果樹連絡協議会会員等14名が参加し、相互視察検討会を開催しました。

始めに会場となった園主から今年の栽培管理状況を説明いただき、令和5年1月にせん定実習を行った樹の生育状況の様子を見ながら、今後の栽培管理や肥培管理等について会員相互で検討を行いました。

普及センターからは、管内のりんご生育状況を報告しました。また、病害虫発生状況と今後の栽培管理のポイント等について情報提供を行いました。

当日は、梅雨明け後の猛暑の中での行事となりましたが、自己の園地と比較しながら、日頃の管理作業の疑問点などの意見交換が行われ有意義な検討会となりました。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○期待の酒造好適米「吟のいろは」の栽培研修会が開催されました

令和5年7月3日

美里農業改良普及センター





「吟のいろは」は2020年にデビューした宮城県オリジナルの酒造好適米です。「吟のいろは」で醸したお酒は、柔らかくふくよかな味わいに仕上がると、県内の多くの酒蔵から期待されており、栽培面積が全県で拡大しています。

6月27日に県みやぎ米推進課の主催で「吟のいろは」の栽培研修会が開催されました。生産者や関係機関など約35名が出席し、大崎市松山地域のほ場で生育状況を確認しました。

普及センターからは、今年度の天候を反映して生育量が早めに確保されていることや、今後の防除作業や適期追肥などについて説明しました。古川農業試験場からはこれまでの栽培データに基づき、目安となる生育量の範囲を目指すことで品質と収量が両立しやすいこと、産業技術総合センターからは出穂後の気温が米質に影響しやすいことや「吟のいろは」の吸水特性について説明がありました。食産業振興課からは「吟のいろは」のお酒が新酒鑑評会で優秀な成績を収めたことなどが報告されました。

普及センターでは、酒米などの地域の特色ある米作りを今年度の重点活動に位置付けており、引き続き生産者全体の技術向上に取り組んでいきます。

○清水地区でアンケート調査説明会を開催しました

令和5年7月13日
大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センターでは、色麻町清水地区の法人化を軸にした営農の将来ビジョンの形成をプロジェクト課題として支援しています。今回、法人の核となることが期待されている清水集落営農組合の役員、農協、色麻町役場と連携して、地域の農業の現状と10年後の将来の意向を確認するアンケートを作成しました。

令和5年7月3日、清水集落営農組合、清水農用地利用改善組合を対象として、アンケート調査説明会を行いました。普及センターでは、アンケートの内容について説明を行うと同時に、法人化についての理

解を深めるため、法人形態ごとの運営の特徴を紹介しました。

今後はアンケート結果をもとに将来ビジョン形成に向けた話し合いを行っていきます。

○JA古川子実用とうもろこしアワノメイガ防除実演会が開催されました

令和5年7月18日
大崎農業改良普及センター



JA古川では、令和5年度102haで子実用とうもろこしの栽培に取り組んでおり、7月5日には、アワノメイガ防除の実演会が開催されました。

アワノメイガは子実用とうもろこしの重要害虫であり、幼虫が稈や雌穂等を食害し、収量の減少やかび毒の発生を引き起こします。昨年度は有効な登録農薬がなく、全てのほ場でアワノメイガが発生し、防除が課題となっていました。実演会では、今年5月から子実用とうもろこしに使用できるようになった殺虫剤をドローンや無人ヘリを用いて散布しました。生産者や関係機関からは安定生産に向けて、期待の聲が上がりました。

普及センターでは、子実用とうもろこしの安定生産に向けて、関係機関と連携し、引き続き技術支援を行っていきます。

○暑さの中、水稻の現地検討会を開催

令和5年7月19日
登米農業改良普及センター



去る7月6日、JAみやぎ登米登米(とよま)稲作部会現地検討会が開催され、部会員及び農薬・資材メーカー担当者等約20名が参加しました。

今回は3筆を巡回し、概ね順調に生育していることを確認しました。この時期の葉色としてはやや薄いほ場があったものの、数日前に有機肥料を追肥していたことから、葉色の改善が期待されました。普及センターからは、登米市内の水稻の生育状況と今後の栽培管理の留意点について説明し、併せてプロジェ

クト課題である「グリーンな栽培体系」の取り組みを紹介しました。

参加した部会員のほとんどが環境保全米に取り組んでいることもあり、プロジェクト課題の展示ほど使用しているペースト肥料の価格や使用量などの質問が多数出され、「グリーンな栽培体系」に対する関心の高さがうかがわれました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を支援していきます。

○ななかだ転作集団部会の現地検討会が開催されました

令和5年7月20日

登米農業改良普及センター



令和5年7月7日に、ななかだ転作集団部会の現地検討会が開催され、生産者19人が参加しました。

はじめに石森地区の農業法人を訪問し、園芸の取組について話を聞いた後、水稻乾田直播ほ場を6か所巡回し、これまでの管理状況についての情報交換と生育状況の確認、今後の管理について検討を行いました。

中田町の乾田直播は、大豆やばれいしょ等転作作物の後に播種を行う事例が多く、肥培管理が難しいのですが、すべてのほ場で上手く管理されており、水稻の生育は非常に順調でした。

梅雨の晴れ間でかなりの猛暑となりましたが、参加した生産者の間では盛んに情報交換が行われ、有意義な現地検討となりました。

普及センターでは、今後も水稻の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○JAみやぎ登米迫稲作経営部会の中間検討会が開催されました。

令和5年7月20日

登米農業改良普及センター



令和5年7月7日に、JAみやぎ登米迫稲作経営部会の中間検討会が開催され、生産者及び農薬・肥料

メーカーの担当者等約10人が参加しました。

部会では、肥料の脱プラスチックを目的に、ウレアホルム肥料、硫黄コーティング肥料、有機一発肥料（プラスチックのコーティングではなく、微生物で分解されて肥効が出る緩効性肥料）等の検証を行っています。

今回は試験肥料を施用した7筆を巡回し、これまでの栽培履歴やほ場の状態を確認するとともに、葉色と幼穂長の測定を行って追肥の要否と時期について検討を行いました。

いずれのほ場も著しい葉色の低下は見られず、順調な生育でした。部会では今後の葉色の推移を注視し、来年以降も継続して脱プラスチック対策肥料を使っていけるかどうか検討する予定です。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○(株)宮城リスタ大川で社員を対象とした水稻勉強会を開催しました

令和5年7月24日

石巻農業改良普及センター



令和5年7月14日に当普及センター主催でプロジェクト課題の対象法人である(株)宮城リスタ大川社員9人を対象とした水稻追肥時期の勉強会を開催しました。(株)宮城リスタ大川は東日本大震災で津波の被害から復旧した農地を中心に193haの面積で水稻を作付けしている県内でも最大規模の土地利用型農業法人です。

勉強会では当普及センターが発行した稲作情報をもとに今年度の水稻の生育経過を説明し、追肥要否の判断、幼穂形成期・減数分裂期の判断方法、水管理、病虫害防除について座学を行いました。また、実際に水稻から幼穂を採取し、幼穂長から生育ステージを判断する方法や葉色の測定結果に基づく追肥の判定方法をレクチャーしました。社員の方々は、自分の担当するほ場の栽培管理を適切に行うため、積極的な姿勢で勉強会に参加していました。

当普及センターは、これからも東日本大震災からの復旧農地の担い手への栽培支援を行ってまいります。

○金のいぶき・だて正夢栽培塾が開催されました

令和5年7月24日

登米農業改良普及センター

去る7月14日、宮城県米づくり推進登米地方本部主催による「登米地域金のいぶき・だて正夢栽培塾」が開催され、生産者及び関係機関約30名が参加しました。



最初に登米地区の「金のいぶき」展示ほ場を全員で観察し、その後に展示ほの稲の生育、品種特性や肥培管理の注意点等を普及センターから説明しました。生産者からは、栽培に関する質問の他、「健康食として病院との連携はできないか」といった意見も出されました。

次に迫地区の「だて正夢」展示ほに移動し、ほ場観察後、普及センターから展示ほの稲の生育や今後の管理の注意点等を説明しました。当日は、だて正夢展示ほの生産者の方にも参加いただき、耕種概要や栽培で気をつけている点等について説明をいただきました。また、全農みやぎの担当者からは両品種の販売状況について説明があり、5年度は実需からの要望が増えていることも紹介されました。

普及センターでは、今後も「金のいぶき」「だて正夢」の収量と品質の向上を目指して、栽培講習会等を通じて生産者の支援を行っていきます。

○「おんないん会」の野菜講習会が開催されました 令和5年7月26日 仙台農業改良普及センター



7月11日、富谷市学校給食センター2F会議室で、富谷市の直売グループ「おんないん会」の野菜講習会が開催されました。

地球温暖化の影響で、平均気温等の上昇や、ゲリラ豪雨・線状降水帯の発生による局地的な降雨により農作物の冠水・浸水被害も毎年のように発生しているため、ほ場の排水対策の徹底を図るとともに、ダイコン、ハクサイなどの秋播き野菜の播種時期を7～10日程度遅らせる提案や、大雨後の高温で発生が多い軟腐病対策も準備しておくよう助言しました。

また、野菜等の多品目栽培で苦勞すると思われる農薬の選び方や使い方、器具の洗浄方法、農薬の保管方法など農薬危害防止についても話しましたが、十分みんなで注意しているとの事でした。

さらに、肥料高騰のおり、土壌分析もしばらく実施していない状況のなので、無駄のない施肥をするため数年に1回は土壌分析を実施するように助言しました。

今後、果樹栽培の現地視察や会員のほ場での現地検討会等を開催する予定との事で、普及センターでも、引き続き防除や栽培管理支援を行い、野菜・果樹の安定生産を支援してまいります。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○「金のいぶき」栽培研修会(第1回)を開催しました 令和5年7月10日 気仙沼農業改良普及センター



6月27日、気仙沼市本吉町の「金のいぶき」展示ほを会場に、幼穂形成期の適期追肥を中心に今後の栽培管理に関する研修会を開催し、生産者や関係機関から計8名が参加しました。

展示ほ担当農家である、株式会社小峯興業の芳賀代表取締役から、栽培の所感や要点についてコメントいただくとともに、気仙沼農業改良普及センターから追肥・防除について説明を行いました。

芳賀代表取締役以外は、本年度からの新規生産者のため、「収量・品質確保のためには幼穂形成期以降の追肥が重要」、「穂いもちに弱い品種のため、いもち病防除を徹底する」といった芳賀代表取締役のコメントに熱心に聞き入るとともに、ほ場を見学しながら活発な質疑を交わしました。

今後は中干しを行い、過繁茂を押さえるとともに、生育目安に準じた適正な葉色値を維持できるよう、改めて適期追肥のための巡回指導を行っていきます。

出穂前に、穂揃い期追肥や防除に向けた第2回目の研修会を開催予定です。

御興味のある生産者の皆様は、ぜひ御参加ください。

○令和5年度 JA 新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました 令和5年7月18日 美里農業改良普及センター

令和5年7月3日(月)に、みやぎ総合家畜市場(美里町)において、JA 新みやぎみどりの畜産共進会が開催されました。

本共進会では、3つの出品区(若雌の1、若雌の2、経産牛)に黒毛和牛21頭が出品されました。

出品牛は、発育良好で、体積感や皮膚のゆとり、乳徴が優れたものが多く、出品者の飼養技術の高さが窺えました。



各出品区の最優秀賞牛と出品者は次のとおりです。

- 第1区（若雌の1） はつみ号
出品者：後上孝行氏（大崎市田尻）
- 第2区（若雌の2） もも号
出品者：相澤まゆみ氏（大崎市田尻）
- 第3区（経産牛） たかふく号
出品者：氏家邦佳氏（大崎市田尻）

本共進会の上位入賞牛は、みどりの地域の代表として「宮城県総合畜産共進会」（9月8日～9日開催）への出品を予定しており、上位入賞が期待されます。

○水稲採種ほの予備審査を実施しました 令和5年7月19日 大崎農業改良普及センター



今年も水稲採種ほの審査が始まりました。今年も7月3日から「予備審査」を実施しました。予備審査は本審査（出穂期と糊熟期の2回）の前に、採種ほ場の場所の確認や種子伝染性の病気の有無などを確認するものです。農業改良普及センターの普及指導員が種子審査員として確認と事前指導をします。

今後8月上旬頃の出穂期と9月上旬頃の糊熟期の2回ほ場での本審査を行い、さらに、刈取り後に発芽率や異種・異品種の混入がないことを確認する生産物審査に合格して初めて「水稲種もみ」として出荷されます。

採種ほから生産された種籾が多くの農家に供給され、来年の種子として使われるので種子生産は重要です。農業改良普及センターでは多くの時間と人員を配して主要農作物の種子の審査業務に当たっています。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会第42回 通常総会が開催されました 令和5年7月7日 大崎農業改良普及センター



大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会の第42回通常総会が6月23日に古川農村環境改善センターで開催されました。冒頭、会長の福原千恵子氏からは、挨拶として、会員及び関係機関への感謝や期待の言葉が述べられるとともに、大崎市長、大崎農業改良普及センター所長及び大崎市農林振興課長からは、42年の長きにわたり、農産加工に関する技術の習得・研鑽や開放講座での伝承活動等、その功績を称える祝辞が贈られました。

総会では、加工実習や開放講座の開催、古川まごころ市への参加などの事業報告及び令和5年度の基本方針や事業計画が承認され、今年度も活発な協議会活動の展開が期待されます。

○田んぼの生き物観察会が開催されました 令和5年7月18日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年7月11日、南三陸町入谷新童子下集落の主催による「田んぼの生き物調査」が、南三陸町立入谷小学校3・4年生児童16名を対象に開催されました。これは、中山間地域等直接支払制度の取組の一つとして毎年開催され、管内市町、JA、県関係機関等で構成する南三陸米地産地消推進協議会が協賛しているものです。

児童はタモ網を持って水田や用水路に向かい、カエル、イモリ、ガムシ、ゲンゴロウなどを見つけては歓声を上げ、友達同士で見せ合ったりしていました。その後、生き物調査の講師から、採集した生き物の名前、見分ける際の特徴、生息域などの説明を聞いて理解を深め、自分が採集した生き物の名前と数をノート

に記していました。

調査の終了後は、集落が用意した南三陸米を使ったおにぎりをいただきました。「おいしい」と喜ぶ児童もおり、顔の表情からも南三陸米のおいしさが伝わってきました。

4年生の児童から「去年よりも多くの生き物を採集できて、自然が豊かになっていると感じました。」といった感想が聞かれ、自分たちが住む地域の自然の豊かさを再発見する機会となりました。

○新商品のパッケージデザインの検討を行いました 令和5年7月20日 大崎農業改良普及センター



加美町では以前から地域おこし協力隊※を募集しており、これまで多くの隊員を受け入れていました。3年間の任期終了後は地域に定着し、それぞれの分野で活躍されていますが、このうちの8人が農業や地場産品を使った商品開発などによる加美町の活性化を目的とした組織「プラビラボ」を結成し活動しています。プラビとは加美の加(プラス +)と美(beauty)を意味しています。

普及センターでは、今年度から加美町の中山間地域の活性化に向けたプロジェクト活動を展開していますが、その一環としてプラビラボと協力して加美町の特産品づくりや中山間地域の活性化に取り組むこととしています。特に今年度は、加美町産の農産物を原料とした加工品の試作、販売を行うこととしており、4月以降その内容について検討を行ってきました。

加工品の製造は、地域の特産品開発や農産物生産を行っている株式会社リロカリコクリ(代表取締役がプラビラボのメンバー)が行い、原料にはプラビラボのメンバーが生産した野菜等を使用することで計画が進んでいます。

今回の打合せでは、パッケージデザインについて宮城県産業技術総合センターの職員から専門的なアドバイスをいただき、イメージカラーを作成できるソフトで加美町を代表する風景の写真などからテーマカラーを決定し、それをもとにパッケージを作成することになりました。新たに開発された加工品はこの秋(11月頃)にやくらい土産センターの直売所で販売される予定です。

普及センターでは、今後もプラビラボのメンバーと協力し、加美町の中山間地域の活性化に向けた活動を展開していきます。

※地域おこし協力隊とは、都市地域から移住してきた人等が地方自治体から役割を任せられ、地域づくりの担い手となる制度で、およそ3年間の任期の後は、受入自治体のサポートも得ながら、その地域への定住・定着を目指す取組です。

活動内容は、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、楽器の作成、地域住民の生活支援など多岐にわたっています。

○大谷いもの販売が始まりました 令和5年7月21日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年7月11日より、気仙沼市本吉町の道の駅「大谷海岸」で「大谷いも」(ばれいしょ)の販売が始まりました。気仙沼市大谷地区はかつてばれいしょの産地であり、昭和30年頃には東京市場で「日本一」と称されるほど高く評価されていました。本吉地域ではこのばれいしょを復活させ「大谷いも」として新たなブランド品にしようとプロジェクトに取り組んでいます。大谷いもは、品種として、かつて生産していた農家で守り育てていた男爵薯を使い、海藻類を畑に施用して育てたばれいしょです。

販売は今年で4年目となり、販売量は年々増加しています。道の駅内の飲食店でも大谷いもを使用したジャケットポテトやかにバーガー等を気軽に味わうことができます。7月23日には販売会が開催される予定です。

○「蔵の華」栽培研修会が開催されました 令和5年7月24日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年7月14日、気仙沼市廿一地区で、酒米の栽培を行う清流「蔵の華」廿一会(会長:熊谷公兵氏、会員12名)を対象に、栽培研修会を行いました。

同会は市内の酒造会社2社(株式会社男山本店、株式会社角星)と酒造好適米「蔵の華」約7haの契約栽培を行っています。棚田風景が広がる同地区で、5月には酒造会社や市、JA、一般市民と連携し田植え体験会を実施するなど、中山間地の地域振興に向け積極的に取り組んでいます。

当日は、高品質な酒米生産に向けて会員のほ場を相互に巡回し、生育状況の確認と今後の管理についての確認を行いました。途中から雨が降り出すあい

にくの空模様でしたが、参加した会員からは熱心に生育状況に応じた今後の管理、イボクサ等の雑草対策に関する質問が挙げられました。

田植え以降、高温で経過しており、雑草防除も丁寧に行われていることから、順調に生育しています。中干し完了後の葉色に応じた追肥や、生育ステージの前進に応じたいもち病、斑点米カメムシ類防除の実施について確認しました。

今回は9月上旬に収穫適期の確認を行い、さらなる多収・高品質化を目指していきます。

○宮城県初！大崎地域わさび栽培現地検討会を開催しました！

令和5年7月24日

大崎農業改良普及センター



わさびの消費量は近年海外で急増していますが、国内では西日本の産地を中心に温暖化による気温上昇等で生産量が減少し、深刻な原料不足となっています。

このため、夏季冷涼な東北地域での生産拡大が期待されていることを受け、大崎農業改良普及センターでは、わさび加工メーカーの金印株式会社(名古屋市)と連携して大崎市、加美町、色麻町に栽培実証ほ場を設置し、わさび栽培の普及に取り組んできました。

今後のさらなる栽培の拡大に向け、令和5年7月7日に、関心の高い農業者を集めた現地検討会を開催しました。加美町の実証ほ場では、試験栽培に取り組んでいる生産者から、「宮城県では初めての畑わさび栽培ということもあり、寒冷紗の設置や害虫防除等、工夫しながら栽培している」という説明があり、創意工夫してわさび栽培に取り組んでいる様子を紹介しました。参加者の中には、「所有する林間地や休耕地で取り組んでみたい」など、わさび栽培に意欲的な発言も聞かれ、今後のさらなる普及拡大が期待されます。

○「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」(商品アピール力向上編)を開催しました

令和5年7月27日

大崎農業改良普及センター



加美町の葉菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人さんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、売上げが減少傾向にあるため、普及センターと加美町では、経営改善に向けた様々な支援を行っています。

その一環として、令和5年7月21日に「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」(商品アピール力向上編)を開催しました。

講師には POP 広告クリエイターとして活動されている経営コンサルティング波多野事務所の波多野ゆか氏をお迎えし、商品情報を楽しく、わかりやすく発信できる POP の作成方法についての講演をいただきました。続いて行われた作成実習では、短い時間にも関わらず参加者の方々それぞれが工夫を凝らした POP が出来上がりました。

POP は商品説明を行う販売スタッフの役割も担っているとされています。今後、今回の研修会の成果をもとに、美しく、お客様の心に語りかけるような POP が売り場を彩ることでしょう。

②大規模自然災害等からの復旧・復興

○長面地区にてプロジェクト課題の水稻の現地検討会を開催しました

令和5年7月28日

石巻農業改良普及センター

令和5年7月25日に当普及センターのプロジェクト課題で取り組んでいる「長面地区における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現」に係る現地検討会を開催しました。本検討会にはプロ



深く拝聴し、積極的に質問がなされ、今後の耕畜連携の展開について改めて考える機会となりました。

プロジェクトの対象である（株）宮城リスタ大川、（農）みのり、（株）ゆいっこの3法人、石巻市河北総合支所、北上川沿岸土地改良区、JAいしのまき、東部地方振興事務所農業農村整備部、当普及センターから27人が参加しました。

本プロジェクト課題は東日本大震災による津波で被災した長面地区において、堆肥施用による土づくりと、効率的な施肥技術（堆肥および速効性と緩効性肥料成分の組み合わせ）により、飼料用米の収量向上やWCS稲の生育により経営の安定を図ることを目標にしています。本検討会では堆肥施用実証ほ場を巡回し、草丈や茎数、葉色などから順調な生育であることを確認しました。本検討会では堆肥の供給状況や企業により試験的に設置された水管理システム、昨年度に施工したカットブレーカーによる排水対策等、地域の課題について意見交換が行われました。

当普及センターは、これからも大規模土地利用型経営体の経営安定を目指し、東日本大震災からの復興を支援していきます。

4. その他

①要請・緊急対策、その他

- 令和5年度仙南農業士会総会が開催されました！
令和5年7月11日
大河原農業改良普及センター



令和5年7月7日に、「令和5年度仙南農業士会総会・研修会」が開催されました。新たに1名の農業士を加え28名となり、今年度の事業計画・予算の承認を受け、役員改選により新会長のもと令和5年度の仙南農業士会が本格的に始動しました。

総会終了後には、最初の活動としてWEB研修会が開催され、農林水産省畜産局飼料課飼料生産計画班の大藪係長より「耕畜連携について」ご講演いただきました。地域農業の中心を担う農業士の方々も興味

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

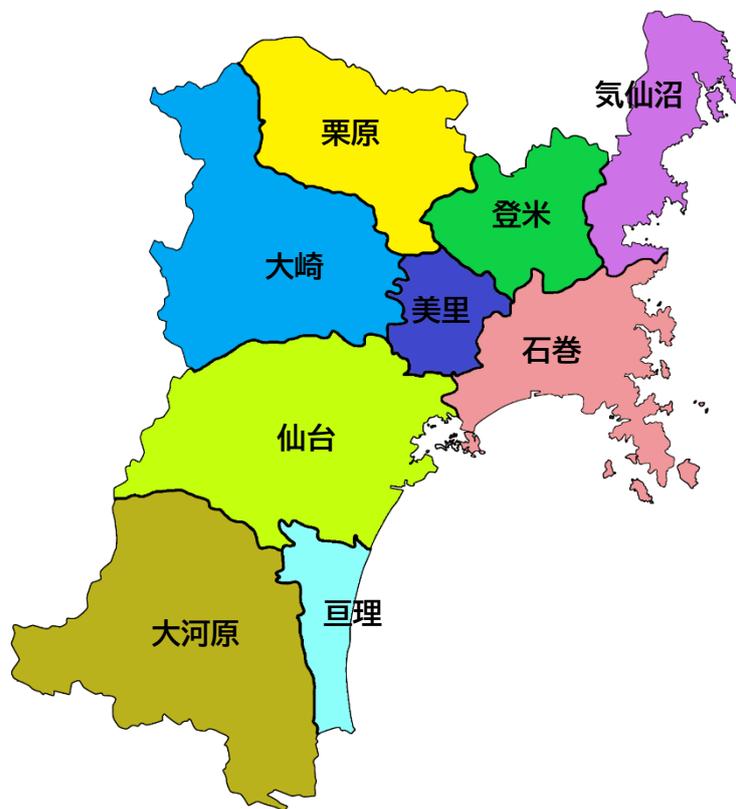
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.198

発行日:2023年8月18日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp